

65 洋装着用時に於ける皺

一特にスカートの場合に就いて一

和洋女子大 伊藤秀三郎
村田八千代
滝沢 初美

1 被服着用時に皺の存在は整容を乱す様に考えられるので、皺の発生に留意して、まずその成り立ちに就いて吟味しようとしたのが、此の目的である。

2 被験者としては大部分本学学生より選び、体格の点から、大、中、小の三段階に分けた。

此の場合スカートの型は、タイト、フレアー、及び襞スカートの三種類とし、布地は毛織物、化学繊維、及び木綿である。

皺発生のための被験者の姿勢は、正座、椅座、歩行及び軽動作（ミシン掛け等）の場合とし、尚アイロン掛けの吟味も行った。

- 3 (1) 正座及び椅座の場合時間の長い程皺が多い。
- (2) 正座、椅座後の歩行では此の順に皺の発生が少ない。
- (3) 椅座でも軽動作（ミシン掛け）を行った場合には皺の発生が多い。
- (4) 布地では厚地程皺の発生が少ない。
- (5) タイト、フレアー及び襞スカートの順に皺の発生が少ない。
- (6) アイロン掛けの場合長時間より、短時間の方が皺